



もうすぐ冬至です。新型コロナウイルスの流行が始まってから3年目になろうとしています。今年はどうな一年だったでしょう。越谷市の文化財関係ではレイクタウン(旧東方村)と大間野の2つの中村家住宅での諸活動は、感染の合間を縫うようにして用心しながら少しずつ行ってきました。市史史料の整備・活用も徐々にではありますが進めております。一年間のご支援に厚く御礼申し上げます。

こんな
ところが

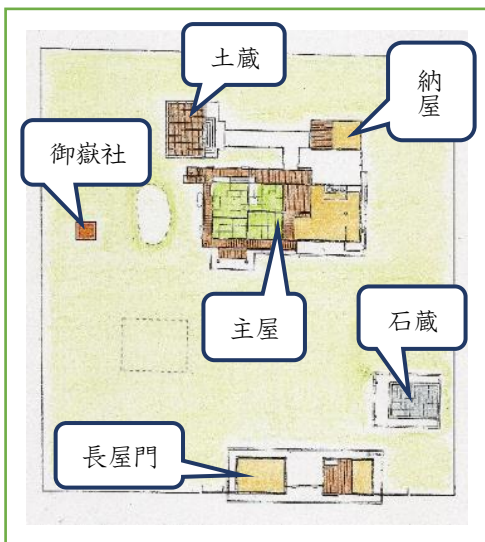
評価されました

10月14日付の官報告示によって、**大間野町旧中村家住宅**が**国登録有形文化財(建築物)**に登録されました。市内では木下半助商店と旧大野家住宅(はかり屋)に続いて3例目です。対象となった6棟の評価された点について、簡単にご紹介します。当館6棟は明治以降の建築ですが、平成9年(1997年)に寄贈され、それぞれの建物は平成13~15年(2001~2003年)に改修を行っています。当家は近世には旧大間野村の名主を務めており、現在の建物はその頃の屋敷の様子をも想像させるものです。

国登録有形文化財建造物

近年の生活様式の変化等により消滅の危機にある文化財を、幅広く保存・活用するために、「指定文化財」制度を補完するものとして、緩やかな保護措置を講じるものです。

登録基準は①国土の歴史的景観に寄与しているもの ②造形の規範となっているもの ③再現することが容易でないものです。



主(おもや)屋

大正3年(1914年)完成

寄棟造りと入母屋造りの屋根を組み合わせています。建築当時の生活様式がうかがえる造りや間取りで、この地域の近世名主層の屋敷構えを今に伝える建物なので上記の登録基準①に該当します。



季節や天候、時刻によって建物の表情が異なります。この写真は12月2日午前9時頃です。そういう自然の状況、条件に応じた、またはそれを生かした造りになっています。

納(なや)屋

明治21年(1888年)建築

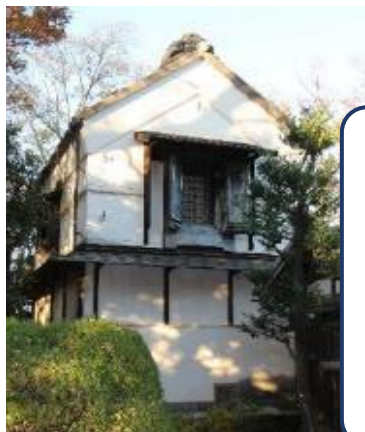
土間部分は味噌部屋として使い、板の間は道具部屋や家事等の女中部屋として利用しました。この納屋は屋根付き裏木戸のある塀と主屋で繋がっています。登録基準①に該当します。



土蔵

明治27年(1894年)建築

揃いの箱膳や什器類、掛け軸や書物を保管していました。東面からの平入で、基礎部分は1.2mの



土蔵内部の箱階段
町家にも見られます。狭い空間を有効に活用しています。



高さまで石を積んでいます。

出入口は両開き土扉で、内側に二枚の引き戸があります。この内側引き戸の右側に鉄格子と金網が張られた木製格子戸、左側に白漆喰で塗りこめられた木製戸となっていて、左右を金具でつないで施錠できるようになっています。

1階床が^{おおびき}大引(床板を支える部材)と同じ高さになっているところが特徴です。

登録基準の②に該当します。

石蔵

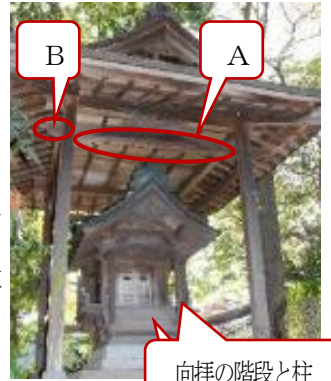
昭和前期建築

房州石を組み上げた一室の石蔵です。米蔵として使われていました。西側からの妻入で、内部の壁には等間隔に板を建て、米俵が直接石壁に接しないようにしてあります。登録基準①に該当します。



御嶽社 (みたけしゃ) 覆屋付 大正前期建築

切妻造りで妻入の祠は珍しいです。青海市の御嶽神社から勧進した農業の神ですが火事や盗難除けの同社護符が土蔵入口内側にあることから、その祈願をしたものでもあるようです。妻入屋根を延ばして向拝と柱を設え、随所に精緻な彫刻が施されています。覆屋は入母屋の屋根で懸魚がついています。虹梁 (右写真のA) には木鼻 (写真のB)、上部には玉を持つ龍の彫刻があります。これらは登録基準の②に該当します。



向拝の階段と柱

長屋門

明治19年(1886年)建築

元々は武家屋敷に多く見られた門で、大扉の左右には雇人たちが起居できる部屋が設けられたことからこの名称がつけました。当館長屋門の二枚の大扉は年輪が以ていることから、一本のケヤキから切り出された材のようです。壁は松煙墨を漆喰に混ぜているので灰色の鼠漆喰になっています。登録基準①に該当します。



造形の妙を伝える意匠

当館の建物には様々な意匠をこらした造形があちこちに見られます。その一部をご紹介します。



鍔絵と青海波(主屋大棟)



懸魚(式台付玄関)



御嶽社



奥座敷の付書院

どんな植物を育てていたの？

小学2年生の町探検

どうしてこんな疑問が湧くのでしょうか？・・・先月17日(水)に大間野町旧中村家住宅を訪れた市立大間野小学校2年生の、思わずハッとさせられた質問でした。

農業を中心とした生活を営んでいた古民家の敷地には、実に様々な種類の植物がありました。この中村家敷地の植物は、大まかにいって次のようなものでした。

【北西部】

高い樹木が植えてあります。夏には西日の暑さや冬には冷たい季節風を遮ります。その内でケヤキなど落葉樹の葉は焚き付けや堆肥の材料になりました。



「太い木だなあ！」

【奥座敷に面した庭】

四季の変化がわかる観賞用の樹木が池の周囲に植えられていました。松などの常緑樹は縁起のよいものとされました。

【その他】

周囲には柿や銀杏などの実のなる木々もありました。イチヨウは水分を多く含んでいることから火災の延焼を食い止めるとも言われていました。



千歯こぎの体験

今回の町探検では、大間野小学校のねらいの中に“自然の変化に気づく”というものがありました。前掲の児童の疑問はこのことに繋がるものです。いい感性ですね。